

赤ちゃんはどこからくるの？と子どもに聞かれたらどう答えますか。

### ～性教育は幼児期から始まっています！！～

10月31日に第3回子育てまなび講座「いのちのふれ愛教育講座」を開催しました。子育てをしていると、こんな経験はありませんか。子どもに「赤ちゃんはどこから来るの？と聞かれてなんて答えていいかわからなかった。」「子どもと一緒に風呂に入っているけど、いつまで一緒でもいいんだろう？」等々。日々、迷うことがあります。今回の講座では、助産師森仁美さんと臨床心理士鬼頭拡美さんの立場からそれぞれ性教育とはどのように捉えるのか、日常の生活でどんなふうに子どもに声をかけたり、接したりしたらよいのかを講話いただき、考える機会となりました。性教育は幼児期から始まっていると言われます。思春期に入ってから、あるいは子どもに聞かれたら話すというスタンスではなく、幼児期から伝えていく必要があります。今回は、講座で話題になったことをまとめましたので、ぜひおうちで伝える性教育のヒントにしてみてください。

これならできそう！

小さいころから絵本を通して

おうちで性教育！



性教育を伝える絵本の数々

#### ～絵本リストの一部～

- ・「げっけいのはなし いのちのはなし」おおいしな 星雲社
- ・「わたしのはなし」山本直英・和歌山静子(作) 童心社
- ・「赤ちゃんはどこからくるの？親子で学ぶはじめての性教育」  
のじまみ著 幻冬舎
- ・「13歳までに伝えたい女の子の心と体のこと」「13歳までに伝えたい男の子の心と体のこと」やまがたてるえ 著 かんき出版
- ・「おちんちんのえほん」山本直英【文】佐藤真紀子【絵】ポプラ社

- ・動画「紅茶の同意」「ミラクルオブライフ」
- ・性教育のWebサイト「セイシル」中高生向け
- ・性教育 YouTuber シオリヌ(助産師 大貫詩織さんの動画)

#### ～動画の一部～



様々な年齢のお子さんを持つ保護者の方々、子育てに関心のある方が **81名** 参加しました。

Q、「性教育」というとどんなことを大切にしたらいいですか？

A.「伝える」ではなく「伝わる」を意識してみましょう。どう感じたの？〇〇って言葉知っているんだね。どう思う？他に聞きたいことある？を大事にしましょう。「いのちの話」で大切なポイントは3つ。

- ①性とは自分の生き方でもあり、自分らしさでもある
- ②否定しない&否定されないこと
- ③「対話」を通じて学び合うことが大切

Q、赤ちゃんはどこからくるのと聞かれたらどう答えたらよいですか？

A. お父さんのおちんちんがお母さんの体の中の赤ちゃんが出てくる通り道に入って赤ちゃんができるんだよ。一緒にいて信頼できる人とでないといけないね。目の前にいる「あなた」は宝物であることを伝えましょう。可児市では幼稚園・保育園で「いのちのふれ愛教育」が行われています。いのちの始まりを正しく知り、いのちのバトンを繋いでいく教育が行われています。



Q、お風呂はいつまで子どもと一緒に入ってもいいんでしょうか？

A. 家庭では「いつから1人で」と決める必要はないと思います。それぞれのご家庭で、お子さんの発達やご家庭の実態に合わせて決めましょう。お子さんの方から「1人で入る！」と言ってくるかもしれませんね。また、一緒に入る側も気を付けたいです。シャワーを浴びる時、体を洗う時の体の向きなど、気を付けるとよいでしょう。

Q、子どもが性的な動画を見ていたり、言葉を検索していたりする場面にあつたらどうしたらいいですか？

A. 親御さんがまずは「一緒に見せて」といって子どもが見ているものを把握しましょう。正しい性教育をするチャンスととらえ、慌てず落ち着いて対応しましょう。間違っている場合は間違っていると伝え、正しい知識を教えましょう。正しい知識を教えられた子は、危険を察知する。毅然とした態度で対応できると言われます。正しい知識を教えることで被害者にならない、(うっかり)加害者にしないことが大切です。

### 【まとめ】講演会より

可児市では、令和4年度から市内の児童館・児童センターを巡回し臨床心理士による講演会を実施しています。また家庭教育学級の保護者向けに、令和2年度から「保護者に知ってほしいいのちのふれ愛教育」を行っています。性について、子どもを必要以上に怖がらせるのではなく、正しい知識を知り、教えることがとても大切です。親がいつも子どもに張り付いて見ているわけにはいきません。子どもに「自分の身を守る力」をつけてあげたいですね。それには、日頃から家庭では、子どもとコミュニケーションを取り、子どもの気持ちをよく聴くようにしましょう。「プライベートゾーン」(水着ゾーン)のことで困ったことがあれば、何でも相談してねというスタンスがよいでしょう。親以外でも園や、学校の先生など、信頼できる大人に相談してもよいことや、発達段階においては専門の相談できる場所があることなども教えておくことも大切です。